

大東町会場（春殖交流センター）

Q1：人口のこと、いろいろ説明いただいたが、例えば30歳以上の独身男女がどのくらいおられるかとかいう話は全然なかった。産めよ、増やせよと言うが、縁がないとどうしようもないかなと思うが。

A：数字については持ってきていないので申し訳ない、婚活の関係は政策企画部で所管している。やっている婚活事業は市民の方々に協力いただいております、男女をマッチングしたり、婚活の相談を受けたりしている。加えて市内の企業、市役所職員が参加しているボランティア団体において、若い職員さんたちで婚活パーティー等の活動をやっている。一定の成果は出ているが、現状からするとまだまだかなというところだが、そういった取組を進めている。（政策企画部長）

A：もちろん、年齢別の人口構成については、データを持っていないと、今のような20代から30代の人口をこのくらい増やしていかないといけないという作戦は立てられないので、持っているが、後で送らせていただく。（市長）

Q2：雲南病院が平成29年度までに完成するということだが、松江にしても出雲にしても、それぞれのカラーで高級な病院、あるいは患者の皆さんに喜んでもらう病院ができている。中に入ってみても、スムーズに業務がなされているということだが、今からできる病院としては、それ以上のものが必要なと思うが、そこらあたりをどういうふうなものを目指して今建設をしようとしておられるのかということ、簡単明瞭で良いので、我々が今後期待する部分ではないかなと思うので、お聞かせいただきたい。

A：近隣の出雲の医大、県中（県立中央病院）、松江市立病院など、大病院がどんどんリニューアルされている中で、平成29年度の当院、いったいどういう病院かというご質問と思う。いろいろ市のホームページ等でもご案内しているとおおり、現在281床の病院だが、規模はそのまま、現地建て替えということ、これはご存知のとおりと思う。コンセプトとしては、これまでも増して地域の皆さまの命と健康を守る医療の要としたいということ。業務の流れその他もIT化、効率化を図って、患者の皆さま方にご迷惑がかからないような病院にしたいと思っている。また、療養環境については、昨今プライバシーの尊重と重視の考えがあるので、個室の割合を増やしたいと思っている。大部屋についても各ベッド周りのアメニティ、周囲の面積も充分取って、プライバシーを確保しつつ快適な療養環境を提供させていただこうと思っている。ヘリポートの件についても各所でご質問いただいている。ドクターヘリ事業がうまく動いている。特に雲南地域は県下の二次医療圏の中で一番利用率が高い圏域となっている。言い換えれば、ドクターヘリが非常に役に立つ地域であり、県中の基地まで10分以内で行ける。ヘリが効果的に使える場所だにご理解いただきたい。ヘリを使って、命にかかわるような場合、三次救急を中心に転送させていただく。それまでのつなぎとなるような病院でありたい。また、県中や医大、日赤等にヘリで送られた患者さんにつきましても、落ち着かれたら速やかにこちらに帰っていただいて、安心して療養してもらうような環境づくりをしたいと思っている。ヘリポートについては、本当は病院の屋上が理想ではあるけれど、ああして病院の建っているところが人口密集地帯であり、騒音等の問題や安全性確保の問題があるので、残念ながら病院の屋上では実現できないので、現在の多目的広場、もしくは代替地でより病院に近いところを現在探しているところだが、市民のみなさんがより安心して、命と健康を任せいただける病院づくりを目指している。（市立病院長）

Q3：関連して、29年度まで3年あるけれども、この3年間に今の雲南病院と、3年先を目指した病院の体制と、職員の皆さんにかかわる教育というか、皆さんが救急で近いところでとりあえず診ていただくというのが病院であると思うし、その病院が気に入ればずっとそこでめんどろをみていただくということであると思うけれども、救急だといっても医師がおられないと病院を変わらなければならないことが多々あると思うけれど、そういう中で29年度に病院ができたけれどもこうしようといってもなかなかできないと思う。あくまでも働く人が本当にその気持ちになって、3年間にどういう教育をして、お客さんのためにやっていくということが大事だと思うので、人が接して職場づくりをして行かれると思うけれど、そこらあたり、計画的に、どのように考えておられるのかわかれば教えていただきたい。

A：質問された点は、救急で受診されてもなかなか診ることができない。すぐに松江・出雲の病院に転送・紹介という形になる、医師がいるのになかなか救急の住民の皆さん方のニーズに雲南病院が、応えてないのではないかというご指摘だと理解している。ご指摘のとおり、おっしゃるとおりだと思う。ただ、ご理解いただきたいのは、現在、医療の細分化・専門化・機能分化ということが言われている。医師・看護師・医療職含めて、あらゆる職種で機能分化が進んでいる。松江・出雲の大病院のように、医師が豊富にいる、看護師が豊富にいるという環境を整えばそれは提供できるかもしれないけれども、分相応というか、この地域の二次医療と言うけれども入院が必要な二次救急を提供するということが、私どもの背伸びしない役割と思っている。診てもらえない、すぐに松江・出雲に紹介する、といったようなお叱りを多々受けるが、これは、ひとえに医療の専門化・細分化が進んできて、この症例はやはり松江・出雲におられる各専門の先生方に診ていただいた方が、結局は患者さんのためになる。そういった判断でやらせていただいていることが多々あるということをご理解いただきたいと思う。ただ、人数が少ないから仕方ないと思うのではなくて、現在、専門医ではないけれど、ある程度専門医へのつながりができる総合医というジャンルがあり、当院の場合、この総合医の育成ということを5年10年に向けての大きなテーマとして持っており、総合医の教育をすべく、ちょうど29年、病院がオープンする年に、日本の医師の専門医制度が大きく変わる。現在、内科専門医と外科専門医、各科の専門医が18あるけれども、29年度にもう1つ加えて総合専門医というものができる。これがまさに、地域の医師が少ない状況で、住民の皆さん、患者の皆さん方に、ある程度の専門的な応急措置、プライマリーケアと言う応急措置を施して、大病院の専門医の治療に繋げていくというタイプの医師を増やして行きたい。こういう医師ばかりで成り立つわけではないので、自分の考えとしては、総合専門医の資格を持った医師が1割から2割いるような病院を目指している。職員、医療職もそういうことに対応していけるよう、職員の教育をしていきたいと思っている。(市立病院長)

Q4：農業分野のことを聞かせていただきたい。最近になって、集落営農とか法人化とかの話がある。委員会の方からもかなり話があって、どんどん進めて行かれるという話を聞いているが、大東町の場合、土地改良事業がかなり早い段階で進んだ関係だろうと思うが、いたって、土地改良はしたけど、まだ細い田んぼ、排水の方も何十年もたっているというようなことで、かなり効果が薄れているような状況である。これを今から集落営農とか法人化とかいろいろやる段階では、まずは土地改良をやっていただいて、そして、米がこれだけ安くなると、多分もうこれからは高齢化も進んでいくわけで、なかなか田んぼで米づくりが難しい状況になろうかと思っている。その米の代わりにできるような、土地改良をして、雲南、あるいは大東町の気候、多分天候具合も変わると思っているが、これに似合った作物を何か、雲南はすごいものができているんだよと言えるような、作物づくりのできるような土地改良でもやっていただいて、まずは農業振興を図ってほしいと思っているが、そこらあたりを考えるともらえるものなのか、どういうお考えをお持ちなのかをまずひとつお願いしたい。それから、せっかく教育長がおいでるのでお伺いしたいと思うが、ああして、今年久野の小学校が廃校になった。子どもの数が非常に少なくなっている。他の地区の小学校あるいは幼稚園などはかなり子どもの数が減った関係で、1クラスに満たない状況だということをお聞きしており、これまで10年間たった雲南市が、これから10年先では小中一貫教育でも、一本化してでも、学校なりスポーツなり、部活でも、いろんなものが大きな活動あるいは教育にならないかなと思っているので、10年先には大東町は小中一貫教育で、高校も含めた大きな勉強づくり、学校づくりをなされてはという思いがしているが、そのあたりの考え方を聞かせて欲しい。

A：大東町の方は土地改良も過去行われてきており、たいへん農業がさかんな地域であると認識しているけれども、おっしゃったように、土地改良、かなり以前にされたということで、農地の当初の機能が保たれていなくて、古くて、またやりかえなければいけないというふうな声もいただいている。現在雲南北の中山間地総合整備事業が、この木次町・大東町・加茂町エリアで、平成29年度までの間でいろいろとご要望をいただいた事業が行われており、当春殖地内でも現在水路の方の整備が行われている。そうしたことで土地改良事業、これで終わりということではなくて、土地改良したところもまた直していくことも確かに必要であり、この中山間地総合整備事業について、次のことを見据えて、これからの計画をして行かなければいけないと思っている。それから、いわゆる担い手の対策として、集落営農組織あるいは法人化ということの担い手をどう育成していくかというお話も出たけれども、土地改良することの目的は担い手の方がそこで継続して営農していただける状況を作ることであり、担い手をつくるということと言うと、集落営農組織を、今、市の方では組織化していただくこと、それと、その次のステップとして農事組合法人、法人化、これをやっていただく。最後の方ではごく最近では土地改良にあわせて養賀原の方で法人を作っていたし、当春殖地区内でも今年の冬に夢ファーム延命の里さんができ、これからまたその法人を中心にいろんな事業を取り入れて、今後も営農していただくという格好になるかと思う。昨今の土地改良事業は土地改良する、その事業費の負担分、補助金を除いたところの受益者負担、これを集落営農というところに集積、これは集めていくということだが、これをしたり、法人さんで一括経営する形をとっていただくと、自己負担が限りなく0に近くなるという制度も持っており、土地改良と農業担い手の方の組織化、法人化、これを併せて、今、市では取り組んでいく、これを進めているところであり、そうした制度を活用しながら、今後とも土地改良事業の方も進めて行きたいと思っている。それから、米の代わりに作物ができるような土地改良ということで、ご指摘のとおりであり、5年後には米の生産調整がなくなるということで、国の方は示している。そうなると今、生産調整をしてある程度価格が維持されている、と言っても下がっているわけだが、その中で5年後には、米のそういった調整がないということになると、米の価格がどうなるか、全く今見えてない状況である。したがって米をこのまま作り続けることができるかどうかという不安を皆さん持たれていると思う。そうした中で国としては、米から他の作物へ転換するというのも視野に入れて、農地の維持をしていただくということを進めているので、市でもできるだけ、米だけではなくて、そばあるいは大豆等の方へ転作を進めていることもある。雲南市独自の作物というものを、皆さん方と相談しながら決めていかねばならないわけだけれど、現時点では国の動向を見ながら、5年後を見ながら、皆さん方と新たな作物も視野に入れて検討していくということである。今年は農業の改革の初めの年になり、本当に大きな転換期である。市長を含めて、この中山間地域で農業をどうやって続けていくことができるかということは、国の方にいろいろ意見も言い、また雲南市独自で、雲南市と島根県と共に検討して行きたいと思う。またご意見寄せていただくようお願いしたい。(産業振興部長)

A：少子化で今後を見据えて小中一貫教育はどうかということ。先ほどおっしゃったように、この10年間で、合併当時は小中学校で分校も含めて32校だった。小学校は25校だったが、この10年間に9校閉校し現在16校、そして中学校7校ということで、今23校となっている。それと幼稚園は16園あったが、休園が1園、4園閉園し、最終的に11園という状況であるけれど、それだけに本当に子どもたちが減った。私どもとしても、閉校を迎えると大変胸が痛い思いをしているところである。そこで今後どうしていくのかということだが、基本的には適正規模適正配置計画で、これは来年度からは後期の計画になるけれど、その計画に従って、地域の皆さま、保護者の皆さまとの合意形成のもとで、適正規模適正配置を進めて行きたいという思いがある。そうした中で、この小中一貫教育については、現在中学校区を中心として、保育所、幼稚園、小学校、中学校、今年から来年にかけては高校まで、一貫した教育理念で進めて行こうということで、すでにそういう教育は進めている。そういう中で、より今後本当に子どもたち、結果的にすぐ統合していくのかどうなのかということもあるけれど、まずは子どもたちの、同じ規模同士の交流、例えば西小学校と佐世小学校が交流していく授業とか、中学校と小学校との授業、例えば小学校6年生が中学校へ行って、体育とか今英語活動ということがあられるけれど、英語ができないかどうなのかとか、そういう弾力のある教育の進め方、そういったことをすでに小規模校あたりは、小規模校同士の交流とか、中学校と小学校6年生と交流したり、合同授業ができないかとか、検討している。いずれも規模の問題、それから教育課程の問題が出てくるのではないかなと思っている。今のところは動向を見ながらということであるので、ご理解いただければと思う。(教育長)

Q5：地区の道路関係のお世話をさせてもらっている関係で、先ほど市長から県道改良率、古い道だが県道が多い関係で、どうしてもそういったところの整備が多いので、県道の改良率が高いとの話だった。そういう中でこの春殖地区も5月に副市長さんに来ていただいて総会をしている。今年も大変お忙しい中おいでいただき、総会の中でもお話をしてきた経過があるが、建設部の方にもいろいろ来ていただいて、この地域内の道路改良工事も、旧大東町の時から比べると時間はかかるけれども、いろいろな形で協力をいただいていることを、まずもってお礼申し上げたいと思う。そういった中で、この春殖地区にもこの大東下分とか飯田とか養賀とかいう場所ばかりではなくて、山田、畑嶋、これが玉造へ抜ける道であったりするが、ここのあたりも非常にカーブが多くて、冬季は大変不自由しておられる場所もある。雲南市になって、どうしてもそういった場所が大東町だけではなくてたくさんあると思うけれども、こういったところの整備が一向に進んでいないという部分で、我々も期成同盟会を立ち上げながら、少しでも早く実現するようお願いしているところである。順番ということで、大東総合センターの窓口を通してお願いしているけれども、やはり最終的に市長さんのところまで、本当に耳に入って、市長さんの指示の中で少しでも早くなる方法はないのかなというような思いがある。そういったことをお願いをしたいし、今後確かに市全体の中、あるいは大東町の中でも順番をつけて、それぞれ県と市道の整備をしていただいているけれども、同じ春殖地区にも当初から、旧大東町の時からずっとお願いしている場所もある。それぞれ機会ごとに皆さん方も言われることがある。それに加えて少子高齢化というものは避けて通れないことであるが、ここらあたりも草がどんどん生えてきて、管理も地域の人中心でいろいろやっていたらいいけれども、今後本当に地区としてどういうふうにしていったらいいかということ、当然考えていかねばならないということは当たり前だけれど、これにも限界があると思う。そこらあたりも、農業関係もさきほどあったように、法人化とかいろいろあるけれども、地域住民が参加する中で、こういったことの方法を何か考えておられるのかということがまず1つ。道路関係については、今度は商工観光課の関係だと思うが、春殖地区は平成12年くらいから、ご存じのとおり河津桜を1000本植えている。これも振興協議会が窓口で、地域で始めた桜まつりを8回計画して開催したところ。今年も雲南市外からもたくさんの人に来ていただいて、問い合わせもこのセンター窓口にもある。今、春殖橋から向こうへ渡って向島自治会さんのところから前原の橋あたりまで200本くらい桜を植えているが、ここの管理もしながら、上はジョギングロードでアスファルト舗装がしてある。下の道は農道の関係であり、泥の道で、草刈の管理などは当然しているけれども、半分からは特に川の高さとどうかわからないけれども、人が歩くにもまたがって歩かないといけなくらい非常に悪い道である。ここを少しでも早く舗装していただきたいという思いがある。そしてこの桜のPRも、雲南市の全国100選の木次の桜を中心に、雲南市合併して、春殖地区の桜を初めとして、雲南市は桜が2か月楽しめる、桜のまち雲南市ということをお我々も文書にしながら謳っている。こういったことで、やはり市の当局あげて、商工観光全体の中で、大東から発信したこの桜を、三刀屋町の御衣黄まで2か月見られる桜ということ、そろそろPRしてほしいと思う。そのPRと1つの契機として道路の整備も併せてやっていただきたいと思っている。簡単でよいので、5センチほど舗装を打っていただくくらいの工事でも、ずいぶん良くなると思うので、そこらあたり是非検討してほしいと思うので、よろしく願いしたい。

A：道路整備について質問いただいた。当春殖地区には道路整備の期成同盟会が組織されている。さきほどおっしゃられたように、いろいろこれまでも道路整備については毎年要望を続けていただいている。その中ですべてがなかなか早く実施できないということについては、私たちも非常に心苦しく思っているけれども、最初市長が申し上げたように、定住環境に道路が一番大事だと承知しているので、順次、少しずつではあるけれど、対応できるようにしていきたいと思っている。その中で、なかなか整備が進んでいかない地域があるというお話もあった。確かになかなか2車線改良というふうにはいかないと思っているけれども、今考えているのは、生活していただくためには、安心安全な道路というのが基本的な考え方だと思っているので、その中で、ご要望がある路線、若干聞いているので、これについてはまた現場も見ながら、そして先ほどあったように優先順位もある程度、安心安全という観点から整備を進めてまいりたいと思っているのでよろしく願いしたい。現場については副市長も現場を見たりしているので、その中でまた相談をして進めさせていただきたいと思っている。それから管理の問題ということだが、これについては先ほど言われたように、今後ますますできなくなるというようなことがあると思う。その点、県道について、市道の方も、特に住宅があるところについては、皆さんボランティアとして出ていただいているところだけれども、山の峠部分についてはなかなか手が入らないということで、こういう部分についてはなるべく早い段階で手を入れてもらう形で要望して行こうという考

え方になっている。そういう形で県道については進めて行きたい。市道についても、この10年間で維持管理の予算をかなりたくさん増やしていっていると思うので、そのあたりまだまだ不足していると思うけれども、できることからなるべく、総合センターと相談しながら対応していきたいと思っているのでよろしく願いたい。(建設部企画官)

A：私の方からは2点だけ、集落内の道路の管理のことがあったが、集落内の農道なり、水路の管理ということでは、中山間地域等直接支払制度による協定集落や、今年から名前が変わって、昔の農地・水環境保全支払の、今年から日本型直接支払制度の中の多面的機能支払交付金ということになったけれど、いずれにしても、両方が金額面ではそういった管理に使える交付金が、市も含めて国の方から出ている。ただ、それをやっていただくのは地元の皆さんということであり、状況としてはなかなかそういった人手がないということでご苦労をされているところだが、その多面的な機能支払については、業者の方をお願いすることもできる部分もあり、そういったところを十分活用していただきながら、地元の、あるいは農事集団でできることがあればそういった面でご協力いただきたいと思います。それと、桜の件については、河津桜について管理していただいております、厚くお礼を申し上げます。先ほどお話があったようにこの河津桜も実は市の方でも桜のPRをする中で、河津桜から木次の桜、三刀屋の御衣黄までの桜のところまでだいぶPRさせていただいている。ホームページの方で見ただけであればわかるけれども、おっしゃるとおり早いところは河津桜のところからスタートしており、今年も桜まつりのシーズンに入る前に、商工観光課の方へも本当に問い合わせが多くあって、もう咲いたかとかまだ咲いとるかとか、いろいろ問い合わせがあった。地元の方で植えていただき、管理していただいて綺麗に咲いているということのおかげだと思ひ、厚くお礼申し上げます。今後とも雲南市の花である桜について、充分なPRをさせていただきたいと思っているので、地元の皆さんも一緒になってご協力いただくようお願いしたい。また、現地で舗装されていない道路があるということ、それについてはどこまでということもあるが、総合センターも含め、現地の確認を担当者の方でさせていただき、道路の優先度の話もあったが、やはり一番急がれるのは生活道路の中で優先度の高いところなので、なかなか観光だけですぐ舗装をするということはどうかと思うけれども、そのへんは現場を見せていただいて、使える事業があればそういったものを活用して整備をしていきたいと思っている。桜の管理も含めて、桜守も市の方にいるけれども、現場の方も一緒になって、市の方でも管理をしながら、雲南市の桜をPRしていきたいと思っているので、今後ともよろしく願いたい。(産業振興部長)

Q6：元気を出すまちづくりを目指している上では、そういった地域の環境もやはり整備していく必要があると思うので、松江尾道線が今年度中にはすべて開通するが、結構、私も見ていると県外ナンバーのうち広島ナンバーが3分の2、そのくらいアクセスが非常にしやすくなった中で、雲南市の行政のひとつのあり方として、雲南市が発展するためには、外部からどれだけ雲南市を通ってもらうか、利用してもらうか、こんなことが非常に大事だと思う。それで、桜をいかにPRできるかということと、来てみたら道路は汚くて車も入らないが、歩くこともできないということなので、もちろん順位はあるかもしれないが、観光の立場として、道路の整備をお願いしたい。この道路が農道の関係もあったりしていろいろあるが、そのあたり私どもは細かいことの担当がわからない。そこを行政サイドできちんと整理していただいて、どの予算でどうするかというようなことを、ぜひ早急に検討していただきたいと思っている。それからもう1つ、雲南市(大東町)には温泉があり、この経過については市長さんのいろいろな配慮で、とりあえずそういったものが増設されて、たくさんの皆さんが利用されていると思う。この温泉の湯というのが、やはり僕は今日本人が一番好む健康の中の1つの方法であって、スポーツ選手もそうだろうけれど、高齢者になった人も足や膝が痛くなるとやはり人間弱ってきて、行動範囲が狭くなって、寝たきりが増えてくるということで、皆さんそれぞれ少しでも歩いたり、スポーツしたり、高齢者になっても一生懸命やっておられる。もちろん、自分の健康管理も含めた中で、地域住民とのコミュニケーションを図っておられるけれど、ここにやはり高齢化が進む中で、リハビリの、天然の泉源を使った、そんなに大きなものじゃなくても、歩けるような健康の施設を大東に作って、松江でも出雲でももっと他からでもそういった人が来て利用して元気になってもらう。泉源がここに眠っている。こういったものをぜひ活用していただいて、そんな立派なものを作るという発想は僕はできないと思うが、やはりこの雲南市を発展させるために、大東町が全体の3分の1を持っている、それぞれ地域あるいは人口である中で、温泉の周辺の開発をして、天然のかけ流しの健康の施設を、足腰を丈夫にする施設を、ぜひ検討をしてほしいと思っている。

10年前のいきさつから市長さんにはたいへんなご足労をかけ、いろんなどころの温泉もそれなりのものでいろいろ整備をされて、大東町民もずっとそういったことを見守ってきた。けれどもやはり高齢化が進むと、元気な高齢者を作っていくためにも、そういった施設は非常に大事なものではないかと思う。営業的な発想で申し訳ないけれども、これはやはり市の方でリーダーシップを持ってそういった施設を建設していただくことについて、管理はどうするかということについては当然あるけれども、そういったものが雲南市の大東町にあるよというもの、雲南市に行ったらなんでもできるよというもの、そんなものを、今病院のリニューアルも含めて、そうしたことを関連づけて作っていただいたらどうかと思う。今、三刀屋にもそういったものがあるということも当然承知したうえでのお話であるので、そこらあたりを再度、雲南市の宝を活用していただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

A：積極的な、建設的な意見をいただき感謝する。まず道路の件、さきほど産業振興部長の方からも触れたけれども、舗装の箇所等、決して順番順番ということではなくて、ご提言のように観光面から考えて、あるいは安心安全を考えて優先順位というものを改めてつける必要があるのではないかと、全くおっしゃるとおりと思う。この6月議会でも、ここは早く対応しないといけない、ここはこういったことで修繕しないといけない、というようなことがあれば、そういったところは優先的にやっていかないといけないといったような調査、その対応調査費もつけて、あぶり出しをしていこうという対応をしているので、そういった中からご指摘の箇所をまた見させていただいて、対応できればと思っている。それから、温泉施設の件、ああしてこの10年間振り返ってみると、そうだったなあと思って、合併前の大東町におかれては、かじか荘があり、ゆとりの里があり、桂荘があり、本当に温泉資源を使って、積極的な観光とその前に旧町民のみなさん方の憩いの場所として整備され、以て町外からの観光客・入り込み客の増加に大きく貢献された次第である。しかし、それが老朽化に伴って、ああした形に今なっているけれども、本当に施設が新しくリニューアルされたということで、多くの方々が来ておられると、もっともっと活かしていく必要があるというふうに思っている。したがって、総合的な視点の中で、今おっしゃるようにいよいよ高速道路本格化時代、これに備えて、インターから降りていただく、また、松江や出雲の方からもたくさん来ていただく、そのための魅力度の発揮ということをもっともっと高めていかねばいけないのではないかと思うし、全くご指摘同感である。今、ただちにというわけにはいかないが、全体的なまちづくり計画の中で、そういった視点をしっかり持って、位置づけて、対応して参りたいと思うのでよろしくお願ひしたい。(市長)

Q7：先日、ここで7月22日から23日に、第1回ふるまいキャンプというものを実施したばかり。その時に教育長さんからも講演のご協力をいただき、感謝する。1泊2日で無事に終わったが、最後にアンケートを取った。その時のアンケートを事務所で回覧して、どういうことが書いてあったかもだけれど、今後続けるにはそれを参考にしたいということで、事務所内職員7人いるが、真剣にそれを読むようにしている。今日最後にアンケート取るようにしてある。これはどのあたりまで集約するのか、市長さんまで目が届くのか、そういうことも気にかかる。形ばかりのアンケートであればどうかなということもあるし、この懇談会が形骸化しないようにという希望も私は持っている。そこのところ、職員さんのところのあたりでまとめたものを市長さんの方へ上げるのか。1枚1枚見るのはちょっと大変だと思うが、書いたものはそういう意味合いを持って書いたもので、また読んでいただきたい。

A：本日の市政懇談会の担当をしている。ご質問感謝する。最初のところで市長が申し上げたが、合併してからこの市政懇談会、さまざまな形でこれまで開催させていただいている。市内30数か所、自主組織単位で開催をしたこともあるし、また開催の内容についても地域課題をテーマにしたこともある。また、自由に意見を出していただくというスタイルでやったこともある。今年のようなスタイルを取らせていただいたのは、一昨年から市内、今年は8会場だが、9会場ということで開催をさせていただいた。この3年間の間に、大東町内だと、一昨年は大東地区・幡屋地区・海潮地区で。昨年は佐世地区・阿用地区・久野地区で。今年は春殖地区・塩田地区ということで、大東町の各地区をこれで1度回ったことになっている。いつまでもこのような形でやるのかということもあるし、今後どのようなスタイルでこの市政懇談会を行っていくのかということを考える上での参考とさせていただきたいということで、今年はこのようなアンケートを取らせていただいた。このアンケートについてはすべてまとめ、特にその他の意見のところは1つ1つ全部まとめて、資料としてすべての

方の意見を記録させていただいて、それについては市長なり副市長なりを含め内部の職員に見ていただこうと考えている。こういった意見を今後の参考にさせていただきたいと考えているので、ご理解いただきたい。(政策企画部情報政策課長)

A：これまでも、市政懇談会はもとより、市がいろいろな行事を行い、アンケートを取らせていただいたものについては、その担当セクションで集まったアンケートについて、個別の意見はもとより、だいたい似通った意見がアンケート結果に出てくると、こういったことが似通った意見としてたくさんありましたとか、いろいろ集計・集約して、全部1人ひとりのアンケートも添付して回ってくる。それを目を通していただくということであり、例えば市政懇談会、今日ここにこうして出かけさせていただいているが、これまでのいろいろな行事等で春殖からのアンケートが出たというものがあれば目を通して出かける、あるいは去年の市政懇談会、春殖はなかったけれど、例えば去年春殖で市政懇談会があったとすれば、昨年はどんな回答があったのか目を通して出かけることにしているし、出かけることがなくてもアンケートの結果が回ってくれば、必ず目を通してること、申し述べておきたい。(市長)

Q8：冒頭で市長、大東高校野球部のことを言われたが、うちの息子は野球をしているもので、みなさんの応援に感謝している。大東高校のことについて、今年の3年生は敗れたが、雲南市からでも東日登とか掛合、また宍道から来てあれほどの強いチームができています。今、大東高校には寮がない現状で、島根県内でも島根中央高校、川本の学校だが、県外やまわりから野球部に100人くらい入れてやっておられる地域も、野球で盛り上がりとういう学校も公立学校でもある。野球ばかりではなくいろいろなスポーツで、大東高校にもやはり寮があった方がいいのかなと思っており、その計画はあるのか伺いたい。県立高校なので市からというのはどうかなと思うけれど。そのことと、雲南市には大学とは言わないが、短大とか専門学校がないような気がしており、これから高齢化社会でもあるし、雲南病院も改修されるということで、やはり医療系とか、高齢者が多くなるので福祉系の専門学校とか、そういう学校が作られる計画とかはあるのか、また、今、建設業など職人さんがおられなくなってきたので、昔、大東には建築の職業訓練校があったりしたので、そういう専門的な学校とかもできればあった方がいいような気がするのですが、そんな計画がないのかということをお聞きしたいと思います。

A：私は大東高校後援会の会長を仰せつかっているが、先日後援会があり、その際に、まだ県大会が始まる直前であり、大東高校、今年は必ず大活躍するからという校長先生のお話があった。本当にそれを裏付けるすばらしい活躍だったが、その時にも学校側から、今おっしゃったように、寮が欲しいという話を取り交わされており、さしあたって、その主旨を大東高校近辺の自治会等で話をし、下宿先をしっかりと確保する方法はどうかとか、寮を建設するにしてもそれはかなり時間がかかるから、そういった対策を地域あげて取り組むというのも1つの方法ではないかというような話をしていた。せっかくそうした話が出ていたので、これは一過性のただの話として終わらせるのはもったいない話だなとその時思ったが、その直後にああした大活躍ということでおさらのことだと思っていたが、今お話があって、本当に真剣に考えなければならないなど、県立高校ではあるけれども、雲南市として、あるいは地域として、どんなことができるのか、しっかり考えて行きたいというふうに思う。それから、短大・専門学校があればということだったが、ああして子どもの数がだんだん減っていく中で、なかなか新たな学校の設立と言うのは、かなりの力仕事だというふうに思っている。新たな学校を作ることも大いなる選択肢の一つだと思うが、もっともっと大東高校の魅力を高めていく対策を取ることが、大東高校をより発展させる、あるいは地域をより賑わいのあるものにするということだと思うので、まずは大東高校、あるいは大東の中学校・小学校の魅力を高めていく、そして、よそからも大東中学校に、高校に来るようなまちづくりが大切ではなからうか。そしてまた、それを軸にして集まってくる人が、子どもたちが多いということであれば、専門学校でもあるいは短大でもということになって行くかと思う。アプローチの仕方として、今あるものを活かしていく、その魅力を高めることが大切だと思う。またいろいろご意見があるかと思うので、お聞かせいただければと思う。(市長)

Q9：いつもこの場では文句ばかり言っているが、今日は1つだけお礼に来た。それは、昨年度は佐世で市政懇談会をしていただいた。その時に大きな大会では手話通訳士さんがいるのに、やはり小さな大会では全然そういうことはないね、という話をしたところ、今年この市政懇談会全部について、手話通訳士さんをつけていただくことができた。本当にありがとうございました。今日はそのお礼に来た。みなさんありがとうございました。